

	シーズ名	メディア・コンテンツを活用した効果的なアーツ・ベースド・ラーニング (Arts-based learning)プログラムと評価法の開発
	所属・役職・氏名	医療安全管理学・准教授・山口(中上)悦子 (NAKAGAMI-YAMAGUCHI, Etsuko)

<要旨>

安全で質の高い医療を市民に提供することは本学の使命であり、基盤となる課題である。医学部附属病院では、安全文化の醸成を目指した職員教育・学生教育に積極的に取り組んでいる。しかし、効果的な教育とは、職員・学生・患者の認知的な側面だけでなく、心理や行動、信条や感情、身体的な感覚等にもアプローチするものである。近年、海外では、そのような方法として芸術・表現の手法を活用したアーツ・ベースド・ラーニング(Arts-Based Learning, 以下 ABL)が導入されている。本研究では、①メディア・アートを応用した、実用性・汎用性の高い医療安全・感染制御のための ABL プログラムを開発し、②評価が難しいといわれる ABL プログラムの評価方法の開発に挑戦する。

<研究シーズ説明>

図1 患者向け転倒防止アニメーション



図2 チームトレーニング用アニメーション



図3 アニメーションを用いた職員研修



大阪市立大学医学部附属病院では、アニメーションやキャラクターを積極的に医療の教育に取り入れ、効果をあげている。たとえば、入院患者の転倒防止の指導にアニメーションを活用し、効果を確認したが、不安などネガティブな感情を増強する可能性もあり、キャラクター設定やストーリーに工夫が必要であることがわかった(論文 1)。また、安全の基本となるチームトレーニングにアニメーションを活用して、コミュニケーションの改善に効果がある等、学習効果が高いことを確認した(論文 2)。

<アピールポイント>

本研究は、医学部/医科大学と芸術大学/芸術専門学校による共同研究で、国内では先駆的な取り組みであり、芸術と医療の混淆が医療の質・安全の向上に有用であることを示す国内唯一の研究である。メディア・アートを医療の質・安全の分野へ応用する取り組みは海外でも稀な研究分野であり、本研究は、医療と芸術の混淆による新しい学術分野を創出すると共に、コンテンツ産業の新たな展開としても期待できる分野である。

<利用・用途・応用分野>

医学教育、医療教育、各種トレーニング、患者へのプロモーション

<知的財産権・論文・学会発表など>

1. Patient safety education using an arts and health approach in Japanese university hospitals: a pilot study. Nakagami-Yamaguchi, E., Murao, H., Itoi, T., et.al. Arts & Health. in press 2017.
2. The effect of an animation movie for inpatient fall prevention: a pilot study in an acute hospital. Nakagami-Yamaguchi, E., Fujinaga, K., Batard, A., et. Al. Safety in Health. 2016 2:3 15 March 2016.

<関連するURL>

<https://ocuqualityandsafety.jimdo.com/arts-health-in-quality-improvement/>

<他分野に求めるニーズ>

コンテンツ産業全般。アニメーション制作とプロデュース イラスト・キャラクター創作。ゲーム制作とプロデュース

キーワード	医療の教育、メディア・アート、アーツ・ベースド・ラーニング
-------	-------------------------------